

走る楽しさ、爽快な生活を予感させる、流れるようなプロポーション。

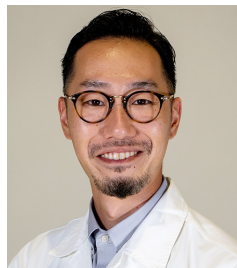
走る楽しさを想像でき、爽快な移動や生活の拡がりまでも予感させるクルマ。それが、エクステリアデザインのめざす姿でした。そこで、デザインコンセプトを「Sokai Exterior」に定め、パッケージやインテリアデザインの開発担当者と共有。走りの質や開放的な室内が感じられ、その魅力が色褪せることのないデザインを追求しました。もっとも重視したのがプロポーションです。流れるようにスムーズなフォルムを基本に、タイヤがしっかりと路面をつかむグッドスタンスによって走りのよさを表現。同時に、ベルトラインを低く水平に設定することで、開放的な室内が外から見て感じられる構成としました。また、面質やキャラクターラインを徹底的に吟味し、数値では表せない感性領域のクオリティを向上。ひと目で魅力が感じられ、なおかつ、長く乗り続けたいようなデザインをめざしました。



パッケージ担当

小林 慧 こばやしけい

広いガラスエリアとゆとりある室内は、歴代シビックが大切に受け継いできた価値です。開発では、3代目ワンダーシビックの開放的なキャビン参考に、先代の持つロー&ワイドな骨格を進化させながら、すべての席で「爽快」が感じられる空間をめざしました。これからシビックに出会うお客様はもちろん、昔からシビックを愛してくださるお客様にも共感いただける気持ちよさを実現できたと思います。



エクステリアデザイン担当

浅野 一磨 あさのひとまる

シビックは、生活にすっと溶けこむ、家族の一員のような存在であってほしいと思っています。新型シビックを迎えてくださるお客様に「爽快な生活」を届けたいという思いで開発にあたりました。流れるように美しいプロポーションと開放的なキャビン、そして運転の楽しさ。ぜひ、見て触って運転して、わたしたちがめざした「爽快シビック」を体感していただきたいと願っています。

■開発プロセス

第1ステップ：プロポーションを磨き上げる

歴代シビックのデザインをさまざまな角度から研究し方向性を検討。サイドウィンドウが描き出すグラッシィキャビン、上下に薄いボディセクション、という構成を新たな発想と技術で磨き上げ、シビックらしさを受け継ぎながら爽快で美しいプロポーションを追求しました。



第2ステップ：プロポーションの美しさを際立たせる

サイドパネルやルーフラインなど、すべての外板を細部まで吟味し、プロポーションの美しさをあますことなく表現。停車中のたたずまいはもちろん、走行中の見え方においても、力強く質の高い走りを感じさせるデザインをめざしました。



第3ステップ：感性に訴える仕上げ

さまざまな環境下にクレイモデルを持ち込み、各部品の成形や組み付けの確からしさを検証。美しいプロポーションがそのまま再現されることを確認し量産に移行しました。

